

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- 「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にし履修を行って下さい。
- とくに、プログラムのカリキュラム構成が「積み上げ型」か「自由履修型」かで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- 「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それをはるかに上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- 各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目（教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目）です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

国際協力プログラム

<p>履修のしかた</p> <ul style="list-style-type: none">• 専門基礎科目の国際協力概論に加えて、国際関係論、法学概論、社会学概論、文化人類学概論などの関連する科目の履修を勧めます。• 国際協力の専門科目では、まず初めに国際協力基礎の科目を履修することを勧めます。興味に応じて、理論や他のカテゴリーの科目を履修してください。実習科目については、国際協力フィールドワーク(フィリピン、インド、日本)は2年生から履修できます。その他の実習科目を含めて、2単位がメジャーとしては必要です。なるべく2～3年次に計画的に履修してください。• 国際協力の分野は幅広いので、様々なカテゴリーの科目を散発的に履修するよりも、なるべくカテゴリーの科目を網羅的に履修することを勧めます。
<p>他のプログラムとの関係</p> <ul style="list-style-type: none">• 特に関連性の強いプログラム 人文領域ではコミュニケーション学プログラムの「文化・共生」の分野、社会領域では法・政治学、文化人類学、社会学などのプログラム、統合領域ではアジア研究、環境学、多文化共生、語学教育の日本語教育などのプログラムと関連性が強いです。• マイナーとして推奨するプログラム 上記の関連性の強いプログラムをマイナー、あるいはメジャーにすることを勧めます。それ以外には、社会領域の教育学(教職課程)や統合領域のメディア・ジャーナリズムプログラムなどもマイナー、メジャーとして勧めます。• 他に履修を推奨する科目 国際協力を実践することを希望するのであれば、英語力が欠かせません。英語科目の履修や自習を勧めます。また、TOEIC、TOEFLなどで自分の英語力を把握することを勧めます。特定の国に興味があるのならば、それらの国の言語の習得も重要です。
<p>留学・教職その他</p> <ul style="list-style-type: none">• 留学について JYA、GOプログラムなど英語圏への留学は勧めます。また、フィリピンなどの英語圏開発途上国の提携校への留学も国際協力プログラムならではの留学先として検討してみてください。• 教職課程(社会・地歴・公民)について 国際協力プログラムの科目の一部が推奨されています。• 毎年開催しているイベント 国際協力プログラムでは、公開授業、講演会がよくあります。掲示に注意してください。春はボランティアフェスタ、秋は国際協力フェスタを国際協力の学生たちが主体で行っていますので、ぜひ参加してみてください。
<p>学生へのメッセージ</p> <p>“Think Globally, Act Locally.”国際協力プログラムでは、自分の頭で問題は何か考え、解決のための実践をしていける自立心をもった国際的人材の育成を目標にしています。多くの本を読み、現場で人々から話を聞き、自分で判断し、メッセージを発信できる人、そんな人になるために様々な機会を提供するのが、このプログラムです。皆さんの参加をお待ちしています。</p> <p>SDGsに関心のある学生さんにとっては、国際協力プログラムは日本国内のみならず、グローバルにSDGsとその実現について深く知り、かつ実践する方法についても知り得る科目があります。「SDGsとグローバルガバナンス」「持続可能な社会」「ソーシャルビジネス実習」などです。関心はあるけれど、実際に具体的にどうしたらいいか考えている人は是非、国際協力プログラムを履修することをお勧めします。</p>

国際協カプログラム

1 国際開発専門家向け履修モデル

この履修モデルは、国際協力の中でも開発途上国の貧困、子どもや女性などの社会的弱者のエンパワメントを中心に学ぶための履修モデルです。紛争などがない一見平和な状況のなかでも、貧困や社会的差別のために苦しむ子どもや女性が多くいます。これらのグローバルな社会的弱者の権利を守っていくことを目的とする国際協力です。

国際協カプログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎				○	国際開発論	2	○	国際法B	2			
				○	人間開発論	2	○	国際機構論	2			
				○	国際法A	2	○	国際人権法	2			
理論				○	SDGsとグローバルガバナンス	2		平和論	2			
								開発経済学	2			
								応用倫理学研究	2			
開発問題				○	地球市民社会論	2						
				○	子どもと開発	2						
				○	ジェンダーと開発	2						
平和問題				○	人間の安全保障	2		平和構築論	2			
				○	模擬国連	2						
地球環境問題		地球環境問題と国際取組	2		地球規模環境論	2		環境NPO・NGO	2			
		環境文明論	2		持続可能な社会	2						
難民・移民・移		日本語教育学A	2		多文化社会論	2		移民法	2			
					多言語交流演習	2		難民法	2			
								年少者日本語教育	2			
実習								○ 国際協カフィールドワーク	2			
								○ ソーシャルビジネス実習	2			
								○ 国際協カインターンA	2			
								○ 国際協カインターンB	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

国際協カプログラム

2 国際平和問題専門家向け履修モデル

この履修モデルは、国際協力の中でも国際的な戦争や紛争、対立などの原因や平和の回復、さらにその後の復興などを行う国連機関等について学び、国際平和の維持と創出を目的とする国際協力について学ぶものです。

国際協カプログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎				○	国際開発論	2	○	国際法B	2			
				○	人間開発論	2	○	国際機構論	2			
				○	国際法A	2	○	国際人権法	2			
理論				○	SDGsとグローバルガバナンス	2	○	平和論	2			
								開発経済学	2			
								応用倫理学研究	2			
開発問題				○	地球市民社会論	2						
					子どもと開発	2						
					ジェンダーと開発	2						
平和問題				○	人間の安全保障	2	○	平和構築論	2			
				○	模擬国連	2						
地球環境問題		地球環境問題と国際取組	2		地球規模環境論	2		環境NPO・NGO	2			
		環境文明論	2		持続可能な社会	2						
難民・移民・移		日本語教育学A	2		多文化社会論	2	○	移民法	2			
					多言語交流演習	2	○	難民法	2			
								年少者日本語教育	2			
実習							○	国際協カフィールドワーク	2			
								ソーシャルビジネス実習	2			
							○	国際協カインターンA	2			
							○	国際協カインターンB	2			

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

国際協カプログラム

3 地球環境問題専門家向け履修モデル

この履修モデルは、国際協力の中でも地球環境問題について、その原因や解決方法などを学び、グローバルな地球の環境的持続性について学び、実践を考えるための履修モデルです。

国際協カプログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎				○	国際開発論	2	○	国際法B	2			
				○	人間開発論	2	○	国際機構論	2			
				○	国際法A	2	○	国際人権法	2			
理論				○	SDGsとグローバルガバナンス	2		平和論	2			
								開発経済学	2			
								応用倫理学研究	2			
開発問題				○	地球市民社会論	2						
					子どもと開発	2						
					ジェンダーと開発	2						
平和問題				○	人間の安全保障	2		平和構築論	2			
					模擬国連	2						
地球環境問題	○	地球環境問題と国際取組	2	○	地球規模環境論	2	○	環境NPO・NGO	2			
	○	環境文明論	2	○	持続可能な社会	2						
難民・移民・移		日本語教育学A	2		多文化社会論	2		移民法	2			
					多言語交流演習	2		難民法	2			
								年少者日本語教育	2			
実習							○	国際協カフィールドワーク	2			
							○	ソーシャルビジネス実習	2			
							○	国際協カインターンA	2			
							○	国際協カインターンB	2			

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

国際協カプログラム

4 難民・移民問題専門家向け履修モデル

この履修モデルは、国際協力の中でも国境を越えて移動する人々、難民や移民の人々の権利や移住地での社会参加、多文化共生社会などについて学ぶための履修プログラムです。多文化共生プログラムよりも、法制度など社会科学的なアプローチを中心としています。また、日本語教育などの実践的科目も含まれます。

国際協カプログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎				○	国際開発論	2	○	国際法B	2			
				○	人間開発論	2	○	国際機構論	2			
				○	国際法A	2	○	国際人権法	2			
理論				○	SDGsとグローバルガバナンス	2		平和論	2			
								開発経済学	2			
								応用倫理学研究	2			
開発問題				○	地球市民社会論	2						
				○	子どもと開発	2						
				○	ジェンダーと開発	2						
平和問題				○	人間の安全保障	2		平和構築論	2			
					模擬国連	2						
地球環境問題		地球環境問題と国際取組	2		地球規模環境論	2		環境NPO・NGO	2			
		環境文明論	2									
難民・移民問題	○	日本語教育学A	2	○	多文化社会論	2	○	移民法	2			
				○	多言語交流演習	2	○	難民法	2			
							○	年少者日本語教育	2			
実習							○	国際協力フィールドワーク	2			
								ソーシャルビジネス実習	2			
							○	国際協カインターンA	2			
						○	国際協カインターンB	2				

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数